

令和 3 年 5 月 27 日現在

機関番号：32663

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K13314

研究課題名（和文）シェリング芸術哲学における雰囲気概念研究 風景画論と芸術実践活動に注目して

研究課題名（英文）The Concept of Mood (Stimmung) in Schelling's Philosophy of Art: by focusing on the Theory of Landscape and his Artistic Activities

研究代表者

八幡 さくら (Yahata, Sakura)

東洋大学・国際哲学研究センター・客員研究員

研究者番号：80773556

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ドイツ観念論の哲学者F・W・J・シェリングの芸術哲学の風景画論における雰囲気（気分）概念に着目し、その概念史の検証と同時代の風景画への影響の考察を行った。

1) シェリングの講義『芸術の哲学』における雰囲気概念がロマン主義の思想家A・W・シュレーゲルから受容されたものであることを両者の比較検討から明示した。2) シェリングのバイエルン王立造形芸術アカデミーでの芸術実践活動を調査し、芸術哲学の理論を適用して同時代のJ・A・コッホの風景画を評価していることを示した。

以上の研究により、シェリング芸術哲学が同時代の思想的な相互影響関係の中で創成され、同時代の芸術に深く関与していることを論証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は雰囲気概念とシェリングの芸術実践に着目した考察により、従来のシェリング哲学研究が明確に議論しなかった、シェリング哲学全体における芸術哲学の重要性を呈示した。初期の芸術哲学と中期以降のシェリングの造形芸術アカデミーでの芸術実践活動とを繋ぐことで、シェリング芸術哲学と同時代の哲学および芸術との相互影響関係を明示した。シェリング芸術哲学の理論による作品の事例分析を行う本研究は、哲学と美学の両領域の橋渡しとなり、従来の研究よりも実証的かつ応用的である。本研究によって、シェリング芸術哲学の哲学史・美学史・美術史上の意義を再認識することができた。

研究成果の概要（英文）：This research focuses on the concept of mood (die Stimmung in German) in the theory of landscape in the philosophy of art by F. W. J. Schelling, a philosopher of German idealism.

This research pursues the history of concept of mood and examines the influences on the landscape paintings at that time. First, this research clarified that Schelling accepted the concept of mood from A. W. Schlegel, one of the founders of German Romanticism, and developed it in his lecture entitled *Philosophy of Art* by comparing the two. Second, I surveyed his activities in the Academy of Fine Art in Munich, and I illuminated that he applied his theory of philosophy of art to the landscape paintings of his contemporary artist J. A. Koch, which he evaluated highly.

From the above survey results, this research demonstrates that Schelling's philosophy of art is based on the interactive relationship of Koch's contemporary works of art.

研究分野：人文学

キーワード：シェリング 芸術哲学 雰囲気 気分 風景画 コッホ 造形芸術アカデミー 自然

1. 研究開始当初の背景

ドイツ観念論の哲学者F・W・J・シェリング(1775-1854)は1800~1807年に芸術に関する哲学的議論を著作や講義で発表している。ただし、これらの主たる著作は同一哲学期に集中しているため、これまで哲学史・美学史から高い評価を得られなかった。しかし、同一哲学以降のシェリング哲学にも芸術の体系構造や芸術理論が含まれるという指摘もある(Jähmig 1966)。また近年、シェリング自身の実際の芸術体験に基づく理論として、芸術哲学の具体的側面が注目されている(Zerbst 2011, 松山 2015)。このような研究の背景から、研究代表者はこれまで、構想力概念に着目して、シェリング芸術哲学を理論と作品分析の両面から研究を進め、シェリング哲学全体における芸術哲学の重要性を論証してきた。具体的には、カント哲学の構想力との比較研究、シェリング芸術哲学における構想力の独自性と初期自然哲学との関連性、シェリングの悲劇論の分析、ドレスデン絵画館での芸術体験の理論への影響についての検討、などが挙げられる。研究代表者のこれまでの研究を通して、シェリング芸術哲学の中の風景画論における「雰囲気(気分)」(Stimmung)概念に関する研究の不十分性と、シェリング自身の1808年以降のミュンヘンでの芸術実践活動の詳細な調査が、先行研究に不足していることが明らかになった。

年代	~1799	1800	1801~1807	1809~1827	1827~1850
哲学体系	初期 自然哲学	超越論的 観念論	同一哲学	中期 自由論	後期 積極哲学
主著作 *は芸術関連著作		*『超越論的観念論の体系』	*『芸術の哲学』*『ブルーノ』 *『学問論』*『造形芸術の自然に対する関係について』	『人間的自由の本質』	『啓示の哲学』*『神話の哲学』
芸術鑑賞・実践活動	ドレスデン絵画館訪問(1798年)			バイエルン王立造形芸術アカデミーでの活動(1808~1841年)	

図1 シェリング哲学の体系分類と芸術鑑賞・実践活動

シェリングは『芸術の哲学』のジャンル論の中で雰囲気概念に着目して風景論を論じる。ドイツ語の Stimmung は日本語で気分や雰囲気と訳されるが、自分の内的気分だけでなく、周辺や環境の持つ外的雰囲気も意味する。シェリングは、人間が自然から全く異なる存在ではないという視点に基づき、主観と客観との相互作用的な関係性が風景の本質に関連すると論じる。この点で彼の議論は主観と客観、精神と自然を区別する西洋の伝統的な二元論的思考方法とは異なる仕方で、我々に人間と自然の関係を再考する新たな視座を提供する。

シェリング芸術哲学は初期ドイツ・ロマン主義との思想的影響関係が指摘されてきた。19世紀にはC・D・フリードリヒなどのロマン主義の画家によって風景画が盛んに制作されるようになる。19世紀の風景画については近年美学や美術史からもアプローチが試みられ、風景画と雰囲気概念の関連についての研究が登場している(Thomas 2010)。シェリング芸術哲学と風景画の関係を主題とするシェリング・コミッションの会議(ミュンヘン、2011年6月)が開催され、シェリングの雰囲気概念を自然の産出性と風景画の関連から論じた研究(伊坂 2012)が出版されるなど、研究が盛んになっている。しかし、シェリング風景画論の雰囲気概念に関する研究は少なく、その内実を明らかにしているとは言えない。シェリングの雰囲気概念の独自性を把握するには、カントやヘーゲル、シュレーゲルなど同時代人からの雰囲気概念の影響作用史を明らかにする必要がある。

シェリングは1798年にドレスデン絵画館で多くの絵画作品を鑑賞している。研究代表者は、チューリッヒ大学美術史学科T・ヴェッディゲン教授の協力の下、ドレスデン絵画館やドイツ国内外の図書館で調査を行い、シェリングの芸術体験を再構成してきた。調査を通して1798年以後のシェリングの重要な芸術実践活動も明らかになった。シェリングは1807年の講演『造形芸術の自然に対する関係について』の翌年から、新設のバイエルン王立造形芸術アカデミーの初代書記長を1821年まで務め、1827~1841年までは学術収集品の主任保存官として、アカデミーの規約作成や芸術作品収集に積極的に携わっている(Pareyson 1977)。1807年の講演までのシェリングの具体的な芸術体験については研究が進んでいるが(Zerbst 2011)、その後の芸術実践活動には焦点が当てられていない。この芸術実践活動についての研究は、今後のシェリング哲学研究史だけでなく、同時代の芸術家との関係という点で美学・美術史においても重要である。

シェリング哲学研究はドイツを中心に精力的に行われており、日本のシェリング研究者は多いとは言えない現状にある。ゆえに、シェリング芸術哲学研究の推進のためには、国内外の研究者と協力して研究を進める必要がある。具体的には、国際会議への参加を通して海外の研究者と積極的に交流し、研究の最新情報を得ることで自身の研究水準を向上させ、研究成果を発信することが求められる。また、研究に不可欠な文献・資料の中には日本で入手困難なものも多いため、年代の古い研究書や資料、最新文献をドイツ国内の図書館で調査することが肝要である。

2. 研究の目的

シェリングは、講義『芸術の哲学』の風景画論において、風景の中に主観と客観の相互作用としての「雰囲気の統一」(die Einheit der Stimmung)を見出している。芸術哲学は理論と作品分析と

いう両面から芸術家の創造性を解明するゆえに、現代において芸術を考察する際にも有益な視点を与える。シェリングの風景画論は、初期の芸術哲学の理論と、1808年以降のバイエルン造形芸術アカデミーでの芸術実践活動とを繋ぐ手掛かりとなる。以上の観点から、研究代表者は雰囲気概念に着目して、シェリングと同時代の風景画の隆興と造形芸術アカデミーでのシェリングの具体的な芸術実践活動を検証し、理論と実践との両面からの研究により、シェリング芸術哲学の哲学的かつ美学的な再評価に努める。

研究代表者は本研究において次の点を明らかにする。(1) シェリング芸術哲学における雰囲気概念の影響作用史を把握する。(2) シェリングと同時代の風景画の位置づけと作品の制作および展示状況を精査する。(3) シェリングのドレスデンでの芸術体験とバイエルン造形芸術アカデミーでの活動について資料調査し、シェリングの芸術体験と実践活動を再構成する。(1)~(3)の研究を通して、シェリングによる作品分析と実際の芸術作品とを照合し、シェリング芸術哲学の理論と実践の交差点を探り、理論の応用可能性を検討する。

3. 研究の方法

シェリング芸術哲学の一次文献の精読を進めると同時に、同時代の雰囲気概念についての概念史研究と、シェリングの具体的な芸術体験とバイエルン造形芸術アカデミーでの芸術作品収集などの実践活動に関する資料調査を行う。本研究を通して、シェリング芸術哲学の理論が芸術作品分析や後の芸術実践活動に応用されていることを論証し、シェリング芸術哲学の理論と芸術実践との相互影響関係を明示する。

具体的な研究方法として以下の三点が挙げられる。(1) シェリング芸術哲学の雰囲気概念に関連する、同時代の雰囲気概念についての概念史研究を行う。(2) 同時代の風景画に関してドイツの美術館および図書館での資料調査を行う。(3) シェリングの芸術鑑賞体験とバイエルン王立造形芸術アカデミーでの実践活動に関して、国内外で資料調査を行う。(1)~(3)の調査をもとに、シェリングの芸術哲学の理論と同時代の風景画およびシェリングの芸術実践活動との接合点を探る。以上の研究方法によって得られた成果を国内外の学会・研究会で発表し、論文として発表することにより、広く研究成果を社会に発信する。

(1) 同時代の哲学および美学における雰囲気概念史研究

シェリング芸術哲学に関する一次文献(『超越論的観念論の体系』(1800年)、『芸術の哲学』(1802~03年、1804~05年)、『ブルーノ』(1802年)、『造形芸術の自然に対する関係について』(1807年))の精読を進める。それと同時に、シェリングの雰囲気概念への他の哲学者からの影響関係を把握するため、1800年代前後の雰囲気概念に関する概念史を整理する。とくに、シェリング芸術哲学に内容的に大きな影響を与えた初期ドイツ・ロマン主義者のA・W・シュレーゲルの『芸術論』の中の風景画論における雰囲気概念とシェリングのものとの比較研究を行う。

(2) 同時代の風景画に関するドイツの美術館および図書館での資料調査

シェリングと同時代の風景画に関して作品制作の時代背景や展示状況の検証のため、ドレスデンおよびミュンヘンの美術館(ミュンヘンのアルテ・ピナコテーク、ドレスデンのアルテ・マイスター)で資料調査を行う。シェリングと同時代の18世紀末から19世紀中頃までのドイツにおける風景画(C・D・フリードリヒ、P・O・ルンゲ、J・A・コッホ)の制作状況や評価について、美術館史や当時の批評家や芸術家による作品批評に関する資料を調査することで明らかにする(Gerhart 2008)。シェリングと同時代人(ドイツ観念論および初期ドイツ・ロマン主義)の芸術史観と芸術家に対する評価を比較検討し、シェリング独自の風景画を明確化する。

(3) シェリングの芸術鑑賞とバイエルン王立造形芸術アカデミーでの実践活動の調査

シェリングの風景画鑑賞体験に関わる、1798年のドレスデン絵画館における風景画の展示状況を調査する。その際、当時のドレスデン絵画館の風景画の展示状況を、ヴェッディゲン教授のデジタル技術によってドレスデン絵画館を再構成した研究を利用し、再構築する(Weddigen 2009, Savoy 2006)。ミュンヘンでの1807年のアカデミー講演以降に行われた、バイエルン王立造形芸術アカデミーでのシェリングの芸術実践活動について、ドイツ国内の図書館(ミュンヘン州立図書館、シェリング・コミッション図書室、ミュンヘン造形芸術アカデミー)および美術館で資料調査・収集を行なう。具体的には、シェリングが作成に関わったバイエルン王立造形芸術アカデミーの規約や、『公衆新聞』に掲載された展覧会の作品批評、カタログを調査する。さらにバイエルン王立造形芸術アカデミーの成立と同時代の芸術に関する芸術哲学の理論と作品分析の関係を検討する。シェリングの芸術体験および実践活動と作品分析を、芸術哲学の理論と照合し、芸術哲学の応用可能性を検討する。

以上の研究を通して、シェリング芸術哲学が初期哲学に分類される一時期だけの理論ではなく、中期以降のシェリングのバイエルン王立造形芸術アカデミーでの芸術作品収集や批評にも応用されており、さらなる発展を遂げていることを文献と資料から論証する。

4. 研究成果

本研究結果として主に以下の三点が挙げられる。

(1) シェリング風景画論における雰囲気概念の同時代のロマン主義からの影響

シェリング芸術哲学に関する著作と同時代の雰囲気概念に関する文献の調査・整理・精読を行い、シェリングの雰囲気概念についての同時代の思想家との影響作用史について研究を進めた。その結果、シェリングの雰囲気概念がとりわけA・W・シュレーゲルの『芸術論』における雰

気概念に由来するものであることを、両者の比較研究から明示した。その上で、シェリングが A・W・シュレーゲルの雰囲気概念から「音楽的統一」という特徴を取り入れ、画家のみならず鑑賞者にも認められる主観と客観の協働の中で生じる調和的な気分を表現する芸術として、風景画を論じているということ論証した。この研究成果を、2017 年 10 月國學院大学で開催された第 68 回美学会全国大会において研究発表した。それを元に執筆した学術論文「シェリング風景画論における気分」は雑誌『美学』(第 69 巻第 1 号、2018 年)に採択された。

(2) 同時代の風景画家 J・A・コッホの風景画における雰囲気概念と自然の産出性

シェリングが芸術哲学を論じる上でその議論に重要な影響を与えたと考えられる、同時代 18~19 世紀の芸術論と絵画作品の制作・展示状況に関して調査を進めた。とりわけロマン主義の風景画を含むシェリングと同時代の風景画に関する資料調査を行った。主な調査地としては、ドイツのドレスデン・アルテ・マイスターおよびノイエ・マイスター、ミュンヘンのピナコテーク、バイエルン州立図書館、ミュンヘン造形芸術アカデミーが挙げられる。調査を進める中で、ロマン主義の風景画家 C・D・フリードリヒおよび P・O・ルンゲとシェリング芸術哲学との思想的な親近性が見出されたが、それに以上に風景画家 J・A・コッホの風景画とシェリング芸術哲学との親和性が判明した。1811 年のバイエルン王立造形芸術アカデミー主催の展覧会に出品されたコッホの風景画を、調和的空間と自然の産出性を描き出す作品としてシェリングが高評していることを書簡と当時の新聞から検証した。本研究成果を、2018 年 9 月にアメリカ・ハワイ大学で開催された第 6 回北アメリカシェリング協会大会で、シェリングの風景画論における産出的自然概念についての研究発表“Productive Nature of Landscape in Schelling's Philosophy of Art”として報告した。本発表は同学会公式ジャーナル *Kabiri* (2020) に招待され、論文として掲載された。

(3) シェリングの芸術鑑賞とバイエルン王立造形芸術アカデミーでの実践活動の再構成

シェリングの芸術鑑賞とミュンヘンでの芸術に関わる活動についての調査を国内外の図書館で行った。とりわけシェリングの芸術実践活動に関しては、ドイツ・ミュンヘンのバイエルン学術アカデミーのシェリング・コミッションの協力によって、国内では入手困難なシェリング芸術哲学とバイエルン造形芸術アカデミーに関する文献を収集することができた。これらの文献から、シェリングによる造形芸術アカデミーでの講演とその後の芸術実践活動(批評、規約草案)を比較し、シェリングが芸術哲学の理論をいかに発展させ、作品批評と芸術家の養成について論じるに至ったかを論証した。2019 年 10 月ミュンヘンで開催された、国際シェリング協会とシェリング・コミッション共催の、シェリング芸術哲学に関する国際会議では、その研究成果として、シェリングの『芸術の哲学』と『造形芸術の自然に対する関係について』の哲学的議論と、造形芸術アカデミーでの活動との関連について報告した。シェリングが芸術ジャンルの中で風景画を重視し、風景画家コッホにドイツにおける風景画の理想を見出していることと、芸術教育が社会・共同体の形成と深く結びついていることを明示した。さらに、シェリングのバイエルン王立造形芸術アカデミーでの書記長としての芸術実践活動について資料調査を進め、同時代の芸術教育と芸術家に対してシェリングが与えた影響を検証した。

以上の研究成果により、先行研究において検証が不十分だったシェリング芸術哲学と彼自身の芸術実践活動・作品分析とが相互影響関係にあることを明らかにすることができた。このことにより、シェリングの芸術に対する関心は初期の芸術哲学期以降も継続されており、芸術哲学の理論が彼の芸術に関わる諸活動に応用されていることを証明した。本研究を通して、様々な国際会議で精力的に研究発表を行い、ドイツを中心にアメリカやフランスなど国内外の研究者と最新研究の情報交換と議論を行うことができた。シェリング研究のみならず、ドイツ観念論、ロマン主義、美術史研究など幅広い学問領域の研究者と協力して研究を進めることができ、国際的な研究者ネットワークの構築に繋がった。

<参考文献>

伊坂青司「ヨーロッパ風景学の雰囲気と文化風土」(栗原隆編『世界の感覚と生の気分』、ナカニシヤ出版、京都、2012 年、103-123 頁)

小田部胤久『西洋美学史』、東京大学出版会、東京、2009 年

松山壽一『造形芸術と自然—ヴィンケルマンの世紀とシェリングのミュンヘン講演』、法政大学出版、東京、2015 年

Gerhart, N.(Hg.), *200 Jahre Akademie der Bildenden Künste München: " ... kein bestimmter Lehrplan, kein gleichförmiger Mechanismus"*, München: Hirmer Verlag, 2008.

Jähnig, D., *Schelling. Die Kunst in der Philosophie*. Bd.1, Pfullingen: Neske, 1966.

Pareyson, L.(Hg.), *Schellingiana rariora*, Turin: Bottega d'Erasmus, 1977.

Savoy, B.(Hg.), *Tempel der Kunst : die Geburt des öffentlichen Museums in Deutschland 1701-1815*, Mainz: von Zabarn, 2006.

Thomas, K.(Hg.), *Stimmung. Ästhetische Kategorie und künstlerische Praxis*, Passagen Bd. 33, Berlin, München: Deutscher Kunstverlag, 2010.

Weddigen, T., „Ein Modell für die Geschichte der Kunst. Die Hängungen der Dresdener Gemäldegalerie zwischen 1747 und 185“, in: *Dresdener Kunstblätter*, Dresden: SKD, Jg. 52, Nr. 1, 2009, pp. 44-58.

Zerbst, A., *Schelling und die bildende Kunst*, München: Wilhelm Fink, 2011.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 Sakura Yahata	4. 巻 -
2. 論文標題 Schelling's Activities in the Academy of Fine Arts in Munich	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Academia Letters	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 八幡さくら	4. 巻 24
2. 論文標題 ヘルダーと同時代のヨーロッパと非ヨーロッパへの視点 笠原賢介『ドイツ啓蒙と非ヨーロッパ世界 クニッゲ、レッシング、ヘルダー』の合評会から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ヘルダー研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Sakura Yahata	4. 巻 2
2. 論文標題 The Productive Nature of Landscape in Schelling's Philosophy of Art	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Kabiri: The official Journal of North American Schelling Society	6. 最初と最後の頁 67-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Sakura Yahata	4. 巻 1
2. 論文標題 A New Mythology in Art from Schelling's Philosophy of Art	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 EAA Booklet, East Asian Academy for New Liberal Arts, The University of Tokyo	6. 最初と最後の頁 43-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 ショーン・J・ミグラ（翻訳者：八幡さくら）	4. 巻 28
2. 論文標題 後期シェリングの宗教的世俗主義	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 シェリング年報	6. 最初と最後の頁 46-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32297/schellingjahrbuch.28.0_46	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 八幡さくら	4. 巻 27
2. 論文標題 書評：《新装版》シェリング『自由の哲学』（二〇一八年）、『歴史の哲学』（二〇一八年）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 シェリング年報	6. 最初と最後の頁 115-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 ローレ・ヒューン（翻訳者：八幡さくら）	4. 巻 37
2. 論文標題 脱自と放下：シェリングとハイデッガーの対話	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 美学藝術学研究	6. 最初と最後の頁 139-169
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/00077206	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 八幡 さくら	4. 巻 69
2. 論文標題 シェリングの風景画論における気分	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 美学	6. 最初と最後の頁 37-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20631/bigaku.69.1_37	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 八幡さくら	4. 巻 7
2. 論文標題 人間の自由はいかにして実現可能か？ シェリング芸術哲学から見たギリシア悲劇の示す第三の道	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際哲学研究	6. 最初と最後の頁 13-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34428/00009786	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件 (うち招待講演 11件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 Sakura Yahata
2. 発表標題 The Role of Art in the Nation: from Schelling's Activities in his Munich Period
3. 学会等名 Seventh Annual Meeting of the North American Schelling Society (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sakura Yahata
2. 発表標題 Der Stimmung als aesthetischer Begriff: Schelling und die zeitgenoessische Landschaftsmalereien
3. 学会等名 Internationale Schelling-Tagung 2020, Natur - Geschichte - Kunst. Schellings Philosophie im Zeitalter des Anthropozäens (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 八幡さくら
2. 発表標題 芸術における自由な想像力 シェリング哲学の視点から
3. 学会等名 東京大学共生のための国際哲学研究センター (UTCP) シンポジウム 「 想像力 とは何か？ カントとシェリングの視座から」 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 八幡さくら
2. 発表標題 芸術家の想像力の源泉としての自然精神 シェリングのアカデミー講演
3. 学会等名 ワークショップ「近代ドイツにおけるガイスト概念の諸相」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sakura Yahata
2. 発表標題 Schellings Aktivitaeten in der Akademie der bidenden Kuenste
3. 学会等名 Wissenschaftliche Tagung: Das Unendliche Endlich Dargestellt, Bayerische Akademie der Wissenschaften (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sakura Yahata
2. 発表標題 New Mythology in Art from Schelling's Philosophy of Art
3. 学会等名 EAA Forum: Recent Past and Remote Past (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sakura Yahata
2. 発表標題 Individuation in Schelling's philosophy of nature
3. 学会等名 International workshop on; The variety and unity of modern Germany philosophy from Leibniz, Kant and Schelling (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sakura Yahata
2. 発表標題 The Mood of Landscape Painting in Schelling's Philosophy of Art and the Contemporary Arts
3. 学会等名 Japan-Latin America Academic Conference 2018 in Nikko (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sakura Yahata
2. 発表標題 Productive Nature of Landscape in Schelling's Philosophy of Art
3. 学会等名 Sixth Annual Meeting of the North American Schelling Society (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 八幡さくら
2. 発表標題 第3章ヘルダー『イデー』における非ヨーロッパとヨーロッパ
3. 学会等名 ヘルダー学会2018年度春季研究発表会・特別企画「笠原賢介『ドイツ啓蒙と非ヨーロッパ世界』を批評する」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sakura Yahata
2. 発表標題 Die Stimmung der Landschaft in der Kunstphilosophie Schellings
3. 学会等名 Humanities in a Changing World: New Ways, Globalization, Responsibility (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 八幡さくら
2. 発表標題 シェリングの風景画論における調和的統一：自然精神と音楽的統一
3. 学会等名 第265回神奈川大学人文学研究所講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 八幡さくら
2. 発表標題 シェリングの風景画論における雰囲気－主観と客観の協働として
3. 学会等名 第68回美学会全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 八幡さくら
2. 発表標題 人間の自由はいかにして実現可能か？ シェリング芸術哲学から見たギリシア悲劇の示す第三の道
3. 学会等名 2017年度東洋大学国際哲学研究センターワークショップ『文学はどう見られていたか 古代・中世・近代の変遷』（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 八幡さくら
2. 発表標題 シェリング風景画論における雰囲気
3. 学会等名 神戸大学哲学懇話会2017年度研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 八幡さくら
2. 発表標題 合評会1 松山壽一『造形芸術と自然：ヴィンケルマンの世紀とシェリングのミュンヘン講演』、合評会2 八幡さくら『シェリング芸術哲学における構想力』
3. 学会等名 第59回シェリング・ゼミナール（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>活動報告「EAA Forum Recent Past & Remote Past」 https://www.eaa.c.u-tokyo.ac.jp/ja/2019/09/13/1280/ 第6回北米シェリング協会大会報告 http://schelling.sakura.ne.jp/6th%20annual%20meeting%20of%20the%20Nass.html 第六回北米シェリング協会大会報告『シェリング年報』第27巻、2019年、120～125頁 https://doi.org/10.32297/schellingjahrbuch.27.0_120 東京大学UTCPシンポジウム報告 東京大学共生のための国際哲学研究センター（UTCP）シンポジウム「想像力 とは何か？ カントとシェリングの視座から」 https://utcp.c.u-tokyo.ac.jp/blog/2021/03/utcp-60/</p>

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------